

平成20年度新規事業評価調書

【県産木材供給センター総合整備事業】

農林水産局林務課

投資事業評価調書（新規）

事業種目	近代化 施設整備	事業名	事業区間	総事業費	約30.8億円
		県産木材供給センター 総合整備事業	宍粟市一宮町安積	内用地補償費	- 億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年度	完成予定 年度
宍粟市一宮町安積			H20	H20	H21
事業の目的			事業内容		
<p>県土の7割を占める森林は、「緑の社会資本」として地球温暖化防止など二酸化炭素吸収源としての機能、県土の保全や水源のかん養等、県民生活を広く支える多様な公益的機能を有している。</p> <p>しかし、近年、木材需要と原木価格の低迷による林業経営意欲の低下から林業生産活動が停滞し、森林の持つ公益的機能の低下という観点のみならず、森林資源の循環的利用といった観点からも県民にとっても大きな損失をもたらすことが危惧されている。</p> <p>現在、森林資源の循環的利用で重要な役割を担う林業・木材産業の生産・加工・流通は、小規模・分散的・多段階な構造で需要者ニーズへの的確な対応が遅れているなどの課題を抱えている。その結果、植林・保育等の経費を森林所有者に還元ができなくて森林整備が進まない状況にある。</p> <p>このため、県産木材の供給拠点施設の整備を早急に進めることで、持続可能な森林経営の確立を促し、森林の有する多面的な機能の持続的な発揮と山村地域の活性化を図る。</p>			<p>(用地造成) 事業主体 宍粟市 施設設置面積 6.0ha 事業費 約11.4億円 負担率 [国50/100 市50/100]</p> <p>(施設整備) 事業主体 協同組合兵庫県産木材供給センター(仮称) 整備内容 製材機、人工乾燥機、建物など 事業費 約19.4億円 負担率 [国50/100 県10/100 市40/100]</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<p>外材製品等に対し「品質・価格・供給力」で競争力を発揮できる「新たな県産木材の加工・流通システム」の実現を目指し、原木の集積から製材・加工までを一体となっていく木材加工の拠点施設（県産木材供給センター）の整備が必要である。</p> <p>県内の人工林資源は、現在、伐採して利用可能な46年生以上の人工林が35%を占め10年後には70%を占めるほど成熟化が進んでおり、伐採・植栽・保育の林業生産サイクルを円滑に循環させて健全な森林を育成していく必要がある。</p>				
(2)有効性・ 効率性	<p>乾燥度合い、寸法精度、強度など品質の確保された県産木材製品に対する信頼性の向上に有効な取組である。</p> <p>既存の集成材工場やプレカット工場との連携等により、県産木材製品の流通拡大が効率的に図れる。</p> <p>今まであまり利用されなかった曲材等低質材の有効活用により、森林資源の循環的利用が推進される。</p> <p>立地場所は、国道29号線から600mと便利なうえ、森林資源が豊富で原木集荷機能が高い地域で、運搬コスト縮減の面からも効率性が高い。</p> <p>費用便益費 B / C = 1 . 4 0</p>				
(3)環境適 合性	<p>木材は再生産・再利用が可能な循環型資源であるとともに、住宅資材として利用することにより炭素を固定でき環境負荷が少ない。加えて、船やトラックで運ばれてくる外材に比べて輸送時に排出される二酸化炭素の量が少ないことから環境負荷が少ない取組である。</p> <p>本センターで設置する予定の人工乾燥機は、加工施設において発生する木くずを燃料とするバイオマスボイラーを活用するもので資源を有効に活用したゼロエミッションの取組である。</p>				
(4)優先性	<p>県内には大規模な県産材の供給拠点がなく、外材から国産材へのシフトが進む木材マーケットを的確にとらえるためにも早急な用地造成、施設整備が必要である。</p>				

県産木材供給センターについて

現状

- 木材価格の低迷により、県産木材需要が急激に低下し、生産量も激減
- 北米や欧州からの輸入製材品が県産製材品の品質（乾燥）より優れる状況

課題

- 品質・価格・供給力を備えた製品の供給システムの構築による、市場信頼性の高い県産木材製品の生産
- 県産木材供給センターの整備

ねらい

- 県産木材の利用を促進し、森林の健全な育成と多面的機能の持続的な発揮を図る。
- 山村地域の活性化

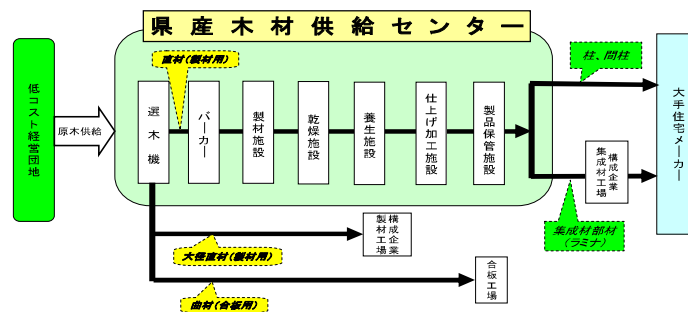
<県産木材供給センターの概要>



【企画提案の内容】

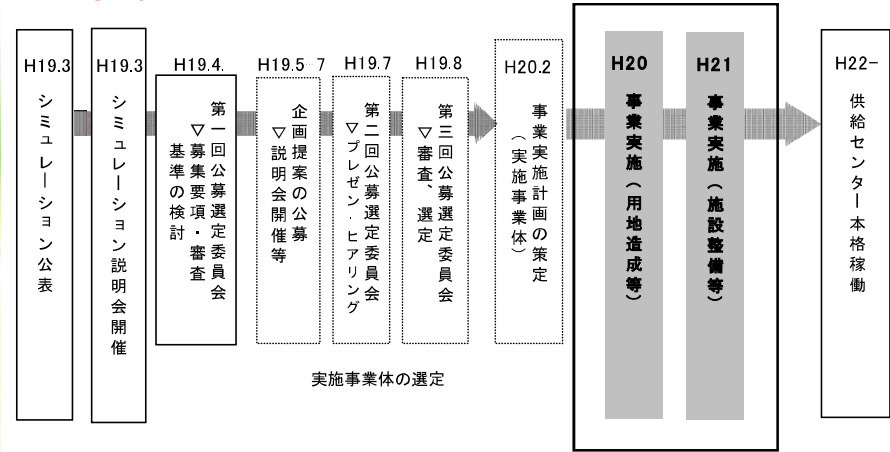
- 原木取扱量：126,500m³
- 生産品目：柱・間柱・集成材ラミナ
- 生産施設：直材・曲材に対応できるライン設置
- 立地場所：宍粟市一宮町安積

《供給センターにおける製品の生産フロー（イメージ）》



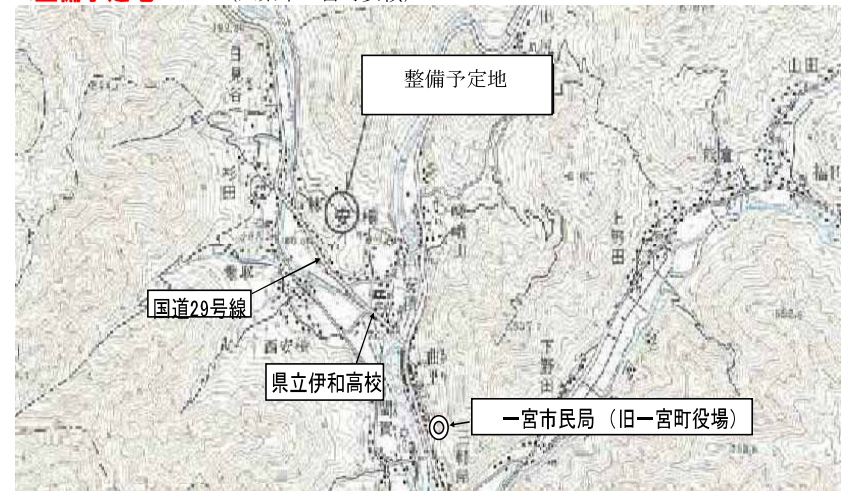
近代化施設-2

<事業化スケジュール>



- 公募選定委員会を設置（大学教授 木材産業コンサルタント 中小企業診断士 政府系金融機関などの分野から計7名）し、募集要項・審査基準を決定したうえで、公募を行い実施事業体を選考した。
- 実施事業体：素材生産業者と製材企業らで構成する協同組合 兵庫県産木材供給センター（仮称）

<整備予定地>（宍粟市一宮町安積）



工程表

兵庫県産木材供給センター整備スケジュール

項目	H 1 9	H 2 0	H 2 1	備考
調査設計	■■■■			宍粟市単独事業による用地造成に係る調査、設計
用地造成		■■■■		宍粟市による用地造成工事
施設整備			■■■■	協同組合県産木材供給センターによる製材加工機、建物等の設置工事

B / C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
総合整備	就業機会増加効果 雇用機会が創出され所得が増加することによる便益	新たに雇用する人員に支払われる賃金 新規雇用人数×年収
	林産物利用増進効果 新たな原木消費により森林所有者の所得が増加することによる便益	森林所有者の所得の増加 年間原木取扱量×(原木買取価格-素材生産費)

費用便益比(B / C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B / C	
		便益額(百万円)	代表的な効果	総費用(百万円)	事業費(百万円)	事務費(百万円)		
総合整備	県産木材供給センター総合整備事業	就業機会増加効果	1,643	新たな雇用人員 41人	3,076	3,076	-	1.40
		林産物利用増進効果	2,674	新たな原木取扱量 12.6万m ³ /年				
		計	4,317					

算定に用いた資料：農山漁村活性化プロジェクト支援交付金費用対効果算定要領